

総合知 ワークショップ

～総合知で切り拓く社会変革とビジネスチャンス

第6期科学技術・イノベーション基本計画(第6期基本計画)では、Society 5.0の実現に向けて、「総合知による社会変革」を目指す方針が示されました。これは、科学技術・イノベーション政策を、人文・社会科学と自然科学を含むあらゆる「知」の融合による「総合知」により、人間や社会の総合的理解と課題解決に資する政策へと転換させようという試みであると言えます。

本ワークショップは、総合知キャラバンの一環として科学技術振興機構と内閣府が共催するものであり、「総合知」をめぐる国内外での取り組み状況を振り返るとともに、今後の科学技術・イノベーション政策の戦略的方向性を探ることを目指します。

2025年 **2月12日(水)**

13:00 ~ 16:30 受付開始 12:30

参加費
無料

対象者

「総合知による社会変革」とともにチャレンジしていきたいと考えている企業、NPO、大学等の研究機関、政府関係機関などご関心のある方

定員

現地参加 : **130名**

オンライン : **500名**

会場

日比谷スカイカンファレンス

東京都港区西新橋1丁目1-1

日比谷フォートタワー 11階



参加申込

下記のURLまたは2次元コードよりお申込みください。

<https://forms.gle/imn6fZjYZChiA2XF9>

申込期限 : 2025年2月7日(金)



【お問い合わせ先】 公益財団法人未来工学研究所・総合知ワークショップ担当 Email : sogochi@ifeng.or.jp

【主催】 国立研究開発法人科学技術振興機構／内閣府

第1部 13:00～13:50 総合知をめぐる動向と全体状況

第6期基本計画期間中に、国内外で「総合知」がどう展開されたのか、全体的な状況を共有します。国内において「総合知」の認知がどのように広がり深まったか、具体的にどのような取組が生まれてきているか、海外ではどのような問題意識で、どのような関連の取組が行われているか等を、これまでの調査結果をもとに振り返ります。

第2部 13:50～14:35 基調講演「『未来を実装する』ための総合知」

社会変革を目的とする「総合知」について、理解の解像度をあげ、対話の共通基盤を形成するために、『仮説行動』などの著作で知られる馬田隆明氏に講演いただきます。具体的には、社会実装を進めるためのノウハウをまとめた著書『未来を実装する』の内容をもとに、総合知をより推し進めるための方法を模索します。



馬田 隆明

東京大学 FoundX ディレクター／公益財団法人 国際文化会館 上席客員研究員 PEP ディレクター

日本マイクロソフトを経て、2016年から東京大学。東京大学では本郷テックガレージの立ち上げと運営を行い、2019年からFoundXディレクターとしてスタートアップの支援とアントレプレナーシップ教育に従事する。スタートアップ向けのスライド、ブログなどで情報提供を行っている。著書に『逆説のスタートアップ思考』『成功する起業家は居場所を選ぶ』『未来を実装する』『解像度を上げる』『仮説行動』。

第3部 14:50～16:30 パネルディスカッション

第1部及び第2部の内容を踏まえ、先進的な取組を行っている多様な現場からみた「総合知」の実践上のポイントや課題などを共有するとともに、科学技術・イノベーション政策の今後の方向性や「総合知」に対する期待などについて対話を行います。

パネリスト



植木 美和

富士通株式会社 富士通研究所
コンバーGINGテクノロジー研究所
ソーシャルデジタルツインコアプロジェクト
シニアリサーチマネージャー

富士通株式会社にて約30年にわたり、サービスロボット、サイバーフィジカルシステム、スマートシティ向けデータ処理プラットフォーム等の最先端の研究開発に従事。現在は、デジタル上で多様な社会課題解決の事前検証を可能にするソーシャルデジタルツイン技術の開発を主導。計測自動制御学会のSI部門副部門長やダイバーシティ委員を務めるなど、学会を通じた産学連携や人材育成にも尽力している。



木村 篤信

日本リビングラボネットワーク 代表理事／
地域創生Coデザイン研究所 (NTTグループ)
ポリフォニックパートナー

企業の立ち位置からのデザイン研究・実践の限界を感じ、社会に開かれたリビングラボ・ソーシャルデザインの研究&実践プロジェクトを立ち上げる。これまでの国内外での共同研究成果や大牟田リビングラボをはじめとする多数の実践知を踏まえ、現在は日本リビングラボネットワークの立場で、日本各地の市民協働PJ、企業のオープンイノベーションPJ、行政のウェルビーイング政策デザインに関わる。東京理科大学 客員准教授。博士 (工学)。



土井 将義

北海道大学 学務部学務企画課
大学院教育改革推進室 専門員

平成16年から国立大学法人北見工業大学の職員として勤務後、独立行政法人大学評価・学位授与機構 (現・独立行政法人大学改革支援・学位授与機構) にて3年間の東京勤務を経て、平成21年から国立大学法人北海道大学に勤務し、現在に至る。令和4年から、北海道大学の学生の研究成果や独創的な取組を社会に伝えと共に、次世代にサイエンスの魅力や面白さを伝えるイベント「サイエンスフェスタ」を主宰。Teamサイエンスフェスタ代表。社会教育士。



中山 忠親

内閣府 科学技術・イノベーション推進事務局
上席科学技術政策フェロー／
長岡技術科学大学 技術科学イノベーション専攻
教授 (学長特別補佐、総括URA)

大阪府立大学 (金属工学)、大阪大学 (応用化学) をへて長岡技術科学大学 (電気) で助教。英国ヨーク大学 (物理) へ留学した後、長岡技術科学大学 (機械) で教授と総括URAを務める。多様な学問背景を元に「長岡技大モデル」"地域をまるごとプロデュース"を牽引し、地方創生プロデューサーとして国内外で活動。2023年からは内閣府へ出向し、総合知を用いた社会変革によるwell-beingの実現に向けた政策立案とその普及に取り組んでいる。日本電子材料技術協会 理事。

モデレータ



濱田 志穂

科学技術振興機構 (JST) 研究開発戦略センター (CRDS) フェロー

JST入職後、社会・産業ニーズと先端研究とをつなぐ挑戦的研究開発や、新興技術のELSI/RRIに関する研究開発などのファンディング事業を担当。現職では、総合知・イノベーション、新興技術ガバナンス、オープンサイエンスなどに関する調査・分析に従事。調査報告書『海外の「総合知」事例 - 社会課題解決に向けた研究・イノベーションにおける知の融合 -』など執筆。